



その マンガ が

きみをひらく！

マンガ 思想文 コンクール 2024

主催：一般財団法人出版文化産業振興財団 (JPIC)

共催：マンガ思想文コンクール実行委員会

協力：コミック出版社の会

協賛：秋田書店 / アルファポリス / 一迅社 / KADOKAWA / 講談社 / 集英社 / 主婦と生活社 / 小学館 / スクウェア・エニックス / 白泉社 / 双葉社 / フロンティアワークス / 日本書普及株式会社

©西修 / 秋田書店 ©Mine Yoshizaki/KADOKAWA ©金城宗幸・ノ村優介 / 講談社 ©尾田栄一郎 / 集英社
©青山剛昌 / 小学館 ©Hiromu Arakawa/SQUARE ENIX ©柳川ゆき / 白泉社 ©臼井儀人 / 双葉社

応募要項

対象マンガ

マンガの裏表紙または巻末に ISBN で始まる数字が記載されているもの、電子書籍の場合は正規配信版が対象となります。学習マンガ（歴史や科学などの教科学習を文章ではなくマンガにしたもの）を除きます。複数巻あるマンガは、全巻でも、その中の1巻でも応募可能です。

応募資格および区分

- ①小学校低学年の部（1～3年生）
- ②小学校高学年の部（4～6年生）
- ③中学校の部（1～3年生）
- ④高等学校の部（1～3年生）

*特別支援学校はそれぞれの対応する部に、中等教育学校および中高一貫校の前期課程は中学校的部に、後期課程は高等学校の部に、義務教育学校はそれぞれの学年に応募する各部および中学校的部に応募してください。

用紙・字数

ダウンロードした指定の原稿用紙、あるいは市販の原稿用紙などを使用し、縦書きで書いてください。用紙のサイズはA4 や B4 など、問いません。原稿用紙には必ず、「氏名」「読んだマンガ」「感想文の題名」を明記し、手書きもしくはワープロソフト（400 字詰め原稿用紙設定）で作成してください。文字数は下記の通りです。

- ①小学校低学年の部 本文 400～800 字以内
- ②小学校高学年の部 本文 800 字以内
- ③中学校の部 本文 1200 字以内
- ④高等学校の部 本文 1600 字以内
 - ・句読点はそれぞれ1字に数えます。
 - ・題名、氏名は字数に数えません。段落や改行で出た空きマスは文字数に数えず、本文の正味文字数で数えます。
 - ・手書きの場合は濃く書ける筆記用具（2B以上）を使い、大きな文字で書いてください。

*感想文に絵を加えての応募もできます（必須ではありません）。感想文とは別の用紙に、マンガを読んで感じたことや考えたことを、自由に描いてください。アナログ、デジタル、モノクロ、カラーなど問いません。必ず裏面に記名し、感想文とともに提出してください。

応募作品

●応募は日本語で書かれた作品に限ります。●一人何通でも応募できます。●応募は個人のオリジナルで未発表の作品に限ります（生成 AI による作文や不適切な引用があった場合、受賞が取消となる場合があります）。●他のコンクール、コンテストとの二重応募は認めません。●応募作品は返却しません。

応募受付期間

2024年7月1日(月)～9月17日(火)※必着

作品提出

●応募作品は、手書きでもワープロソフト使用でもかまいませんが、紙で提出してください。●応募票を特設サイトよりダウンロードして記入し、作品の一番上につけてください（クリップでとめてください）。●応募票は、作品1通につき1票必ずつけてください。●複数応募する場合も、それぞれの感想文に応募票が1枚ずつ必要です。●応募票に不備がある場合、審査対象にならないことがあります。●ホチキス・のりは使わないでください。

郵送先

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町 2-2-30 4F
JPIC「マンガ感想文コンクール」事務局

賞について

グランプリ…各部門 1 名
特別賞…各部門より若干名
団体賞…応募数、作品内容を考慮し若干団体（10 名以上の応募があった団体が選考対象となります）

入賞者には、賞状、オリジナル図書カード（グランプリ 3 万円分、特別賞 1 万円分）を贈呈します。団体賞の入賞団体には、賞状・記念品を贈呈いたします。

入賞発表

入賞は 2025 年 2 月頃に本人・保護者の方宛に通知します。
※団体からの応募および個人への連絡が難しい場合など、在籍校に連絡することがあります。

授賞式

2025年3月、入賞者を招待し都内にて授賞式を予定しています。
※荒天など今後の動向により中止・延期する可能性があります。

応募作品について

入賞された方の作品・氏名・学校名・学年は主催者の刊行物や WEB サイトで公表します。また、テレビ、ラジオ、雑誌、書籍、教材、出版物など各種媒体で使用・公表することができます。

お問い合わせ

E-mail : manga@jpic.or.jp

後援：北海道教育委員会 / 青森県教育委員会 / 岩手県教育委員会 / 宮城県教育委員会 / 秋田県教育委員会 / 山形県教育委員会 / 福島県教育委員会 / 茨城県教育委員会 / 桐生県教育委員会 / 群馬県教育委員会 / 埼玉県教育委員会 / 千葉県教育委員会 / 東京都教育委員会 / 神奈川県教育委員会 / 新潟県教育委員会 / 福井県教育委員会 / 山梨県教育委員会 / 長野県教育委員会 / 岐阜県教育委員会 / 静岡県教育委員会 / 愛知県教育委員会 / 三重県教育委員会 / 滋賀県教育委員会 / 大阪府教育委員会 / 兵庫県教育委員会 / 奈良県教育委員会 / 和歌山県教育委員会 / 鳥取県教育委員会 / 島根県教育委員会 / 岡山県教育委員会 / 広島県教育委員会 / 山口県教育委員会 / 徳島県教育委員会 / 香川県教育委員会 / 愛媛県教育委員会 / 高知県教育委員会 / 香川県教育委員会 / 公益社団法人 文字・活字文化推進機構

一般社団法人 日本書籍出版協会 / 一般社団法人 日本雑誌協会 / 一般社団法人 日本出版取次協会 / 日本書店商業組合連合会 / 公益社団法人 読書推進運動協議会 / 公益財團法人 文字・活字文化推進機構

マンガ感想文コンクール 2024 特設サイト
2024年7月 OPEN

manga-kansoubun.jp

2023年度審査員のコメント



マンガを「語る」ことの 楽しさと難しさ

吉村和真教授

「マンガが好き」という気持ちや「マンガは面白い」という感覚は、このコンクールに関心を持つ人であれば共通するものでしょう。作品の絵柄にキャラクター、ストーリーの展開に世界観など、マンガの魅力はさまざまに存在します。

ただし、マンガの楽しみ方は「描く」「読む」だけではありません。そこに「語る」が加わります。つまり、マンガの魅力を言葉にするということです。自分が好きなマンガのシーンやキャラクターを友達に伝えるのは楽しいですよね。ネットでも、たくさん的人人がお気に入りのマンガについて論じています。

プロフィール

1971年福岡県生まれ。京都精華大学マンガ学部教授。専門は思想史・マンガ研究。主要な著書に『マンガの教科書—マンガの歴史がわかる60話』(龍川書店、2008年)、『マンガノミカタ—創作者と研究者による新たなアプローチ』(樹村房、2021年)など。マンガ研究の環境を整備するために、日本マンガ学会や京都国際マンガミュージアムの設立に奔走。一日三食の食事と同じように、毎日マンガを読みながら、マンガの歴史やマンガが人間に与える影響について研究している。

ですが、それは決して簡単な作業ではありません。なぜなら、マンガには、絵と文字のほかにも、多種多様なコマ割りや吹き出し、さらには、独特な擬音語や記号表現があって(例えば、「ガーン」と「顔に縦線」が並んでいる場面など)、その魅力を言葉だけで説明しようとしても、なかなか「かゆいところに手が届かない」からです。しかも、気の合う友達だけでなく、より多くの人たち(例えば、あなたが推すマンガを知らない人もいるでしょう)にも伝えるとなれば、至難の業といえるかもしれません。

したがって、それにトライすることは、文化体験としてのマンガ読書をさらに意義深くすると同時に、自分が使用する言葉や文章の表現方法を豊かにしてくれる大きなチャンスでもあります。

今や世界の共通言語となったマンガ/MANGAを題材に、あなただけの感想文を発表してみませんか。

応援コメント



面白さを伝えることも、 きっと面白い

凧良ゆう先生

小さいころから物語が好きでした。小説家を名乗るようになった今、そう聞くと、物語とは立派な小説のことだと思われるかもしれません。ですが、実はわたしはかつて漫画家になりました。残念ながら、漫画家になれるだけの力はなかったのだけれど……物語を創る人、にはなれました。

物語は、いつもわたしを「ここではないどこか」に連れて行ってくれる翼でした。その翼には、小説も、漫画も、アニメも、差はありません。

プロフィール

京都市在住。2007年に初著書が刊行され本格的にデビュー。BLジャンルでの代表作に連続TVドラマ化や映画化された「美しい彼」シリーズなど多数。17年に『神さまのビオトープ』(講談社タイガ)を刊行し高い支持を得る。19年に『流浪の月』と『わたしの美しい庭』を刊行。20年『流浪の月』で本屋大賞を受賞。同作は22年5月に実写映画が公開された。20年刊行の『滅びの前のシャングリラ』で2年連続本屋大賞ノミネート。「汝、星のごとく」は、第168回直木賞候補、第44回吉川英治文学新人賞候補、2022王様のブランチBOOK大賞、キンスマス!2023第1位、第10回高校生直木賞、そして23年、2度目となる本屋大賞受賞作に選ばれた。

しんどいとき、悲しいとき、勇気を出したいとき、いつでもそこには物語がありました。

「読書感想文」といわれると、なんだか真面目なことを書かなければいけない、と思うかもしれません。正しいことを書かなければいけない、とも思うかもしれません。でも、本当はそうではないのです。面白いことや楽しいがあったとき、「誰かに伝えたい!」と思うのは自然なことですよ。わたし自身も、たとえばわたしの担当編集者さんは、その気持ちを持ったまま大人になったような人たちはばかりです。その感動を、感情を共有したいと思う気持ちが新しい物語を生み出します。どうかみなさんの「伝えたい!」をぶつけてください。きっとその思いが、他の誰かを動かす力になるはずです。みなさんの熱い思いがこもった「感想」を、楽しみにしています。

2023年度受賞者のコメント

中学校の部グランプリ 安部梨緒奈さん

読んだマンガ
原泰久 著
『キングダム』
(集英社刊)

素晴らしい賞をいただきありがとうございます。
『キングダム』は祖父の愛読書で、私も大好きになったマンガです。

受賞の知らせを聞いたとき、私の作文からこの作品への愛が伝わったのだと嬉しかったです。

『キングダム』を読むと、仲間の存在について考えさせられます。仲間のおかげで諦めず、強くなることができました。『キングダム』を通して深まった友への感謝を胸に、新しい出会いの中でもこの作品の主人公のように、仲間の思いを背負っていけるような強い人物に成長していきたいと感じました。

*部門・受賞者の学年区分は2024年3月当時のものです。
受賞作品はコチラから→manga-kansoubun.jp

高等学校の部グランプリ 和田七望さん

読んだマンガ
三星たま 著
『夜の名前を呼んで』
(KADOKAWA刊)

私にとってかけがえのないマンガである『夜の名前を呼んで』の感想文でグランプリを受賞することができ、幸せな気持ちでいっぱいです。私の感想文が、「夜の名前を呼んで」と、そこに込められたメッセージを必要としている方と繋ぐ架け橋となれば、ひとりのファンとしてとても嬉しく思います。

私は、マンガ感想文コンクールに応募するにあたって、改めてマンガが持つ魔法のような魅力を再確認しました。マンガは、子供から大人まで、一生を通して楽しむことが出来るエンターテインメントであり、どんなときも寄り添ってくれる友達にも、先生のように人生の道標にもなってくれる頼もしく温かい存在ではないでしょうか。

これからも一人のマンガファンとして、読書を通じて心に湧き上がってきた想いを大切にし、ひとつひとつの作品との出会いに感謝しながら、マンガを楽しんでいきたいです。

Q&A

マンガの選び方が
わからない

どんなことを
書けば良いの?

などの疑問に答えます。

Q1

マンガをどのように
選んだらよいですか?

何を読むか迷っている人は、家族や友達、身の回りの人と好きなマンガをおすすめし合うことでふだん読まないジャンルのマンガと出会うことができるかもしれません。書店やマンガを置いている図書館が近くにあれば、気になるものを読んでみてください。もちろん、話題になっているマンガを読んでみるのも一つの案です。迷った場合は、パンフレットの「おすすめマンガ」もぜひ読んでみてください。自分が読んでいて気持ちが動かされるようなマンガを感想文の題材に選んでみましょう!

Q2

どのようなことを
書けばよいですか?

マンガを読んで、自分の思ったこと、考えたことを自由に書いてください。

読んでいるときに心が揺さぶられ、感動しましたか?なぜ自分が心が動いたのかをよく考えてみましょう。自分自身にとって大切な意味を見つけ、その発見や感動をほかの人にことばで伝えようとするのが感想文です。

また、このコンクールでは、感想文に限らず、エッセイ・推薦文・手紙などの文章でも受け付けます。形にとらわれず、自分に合った書き方を探してみるのもよいでしょう。



マコガ感想文 コンクール

Q3

決められた文字数
以内なら何文字でも
よいですか?

たくさん書いたほうが読む人に伝わりやすい場合もありますが、このマンガ感想文コンクールでは自分の考え方や気持ちをきちんと表現できていれば、短くても文字数いっぱいではなくてもかまいません。決められた文字数の中で自分が納得できるまで書ききってみてください。

Q4

絵は描かなくては
いけないのですか?

「絵も描きたいな」とか「絵もあったほうが自分の言いたいことが伝えやすいな」と感じたら、ぜひ描いてみてください。描かなくても審査には影響しません。提出する場合はコピー用紙や画用紙などを使い、裏面には必ず名前を記入してください。

Q5

感想文が書けたら
どうしたらよいですか?

下書きを終えた文章は次の点に気をつけて読み直してみてください。

- 誤字・脱字(文字のまちがいや抜け)がないか
- 自分の感じたことや想いが書いているか
- 原稿用紙の使い方はあっているか

手書きの場合は2B以上の筆記用具で、原稿用紙にはっきりていねいに清書してください。必ず「応募票」を記入し、原稿用紙にクリップでとめて提出しましょう。

*作品を複数まとめて送る場合は作品ごとに応募票をつけクリップでとめてください。
*作品にホチキス・のりは使わないでください